

石庭

酬恩庵一休寺の寺院を囲むように、特に美しい伝統的な日本の禅苑枯山水庭園があります。酬恩庵は、このように四季折々、特に春に咲く木々と秋の紅葉など自然の豊かさを楽しむのに最適です。方丈の側の方丈庭園は、国の名勝に指定されています。方丈庭園の作者については、あまり知られていませんが、江戸時代（1603－1868）の当時の有名な3人の設計者によるものと考えられています。

庭園は、南、北、東と三面にあり、それぞれ違った風情をかもしています。北庭は、伝統的な枯山水で、日本神話によると魂が集い、不老不死の仙人（ときには妄想、あるいは「触れることができない幻」と表されます）がいると言われる「蓬莱山」を岩で表現したとされます。北東の隅には、2 m の「観音石」を置いています。東庭は、様々の大きさの石で十六羅漢になぞらえたとされます。南庭は、海をイメージして造られ、瑞々しい木々、ツツジ、西側には大きい蘇鉄が植えられ、典型的な禅苑庭園です。方丈庭園は、北から東へそして南へ、蓬莱山から海へ続く道、そして海そのものを表しています。